



## 第2回東北大学災害科学研究拠点セミナーで発表しました(2018/8/24)

テーマ：東日本大震災による精神的健康と心理社会的支援の検討  
場所：東北大学医学部6号館1階カンファレンス室（宮城県仙台市）

2018年8月24日、東北大学において第15回災害科学国際研究所「災害と健康」学際研究推進セミナーを開催し、災害医学研究領域の奥山純子が「東日本大震災による精神的健康と心理社会的支援の検討」と題して講演を行いました。

今回、私ははじめに国内外で行われた地震による精神的影響についての研究を概観し、博士課程での研究から、東日本大震災の被害を受けた高校生の心理状態について紹介しました。震災後1年目、2年目、3年目において抑うつ、不安、外傷後ストレス反応を調べ、いずれかの心理検査票のカットオフを超えた全ての生徒に対して、高校の担任教諭を中心としたカウンセリングを行いました。上記3つの心理状態の中で、高校教諭らによる支援が抑うつ、外傷後ストレス反応の改善に有効ではないかという点について論じました。

また今後の取り組みとして、東日本大震災の大きな被害を受けた、七ヶ浜町住民を対象にした縦断研究を紹介しました。震災後8ヶ月目から調査を開始し、これまで毎年7年間調査を継続することで、震災後の長期的な健康・精神への影響について明らかになること、さらに今後も新たな質問紙を追加して研究を進めることで、復興支援に有用な情報が得られる可能性を示しました。また、東日本大震災や熊本地震の被害を受けた精神科病院についての調査結果について紹介し、最後に東日本大震災の被害を受けた高校生のレジリエンスについて報告しました。

発表後、質疑応答が行われ、震災後の心理的状态やその研究方法について多くの分野の方々から意見をいただくことができ、また、私の発表内容に関して、有意義な議論を交わせたことは、普段得られないたいへん貴重な体験でした。今回のセミナーでの発表の機会を得たことに対して、心から感謝したいと思います。



奥山先生の発表の様子



会場の様子

文責：奥山純子（災害医学研究領域）